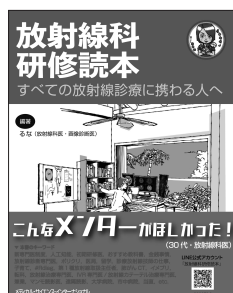




放射線科研修読本

すべての放射線診療に携わる人へ



編著：るな
(放射線科医・画像診断医)

発行：メディカル・サイエンス・
インターナショナル

2022年8月刊行
B5変型判・320ページ
定価：4,730円（10%税込）

必読！ より良いライフスタイルやワークスタイルのために世代を超えて読んでほしい1冊！

昔はもちろんのこと、SNSが普及した今日でも、放射線科の実状を隅々まで知る術(すべ)はなかなかないと思う。この本は、放射線科医の業務って？放射線診断専門医を取得するまでに何をすればいいの？どんな資格があるの？子育て期間中はどのように仕事をしたらいいの？留学までの準備、留学先の探し方は？などなど、いろいろな疑問にお答えし、さらには不動産、株式投資といった副業まで、どの章にも重要なメッセージが含まれている。

例えば、ある章では、「学ぶにはどんな動機であってもよい」と書かれていた。私もそう思う。研修医の頃、読影していると、横で診療放射線技師同士の「第1種放射線取扱者主任者の資格は医者でも難しい」という会話を耳にはさみ、よし、チャレンジしようと勉強し、取得した。またある章では、「医学博士、専門医の二者択一は無意味だ」と書かれていた。大学時代、剣道部の監督から「二兎を追う者は二兎をも得よ!」とよくいわれた。これは、“一つだけを突き詰めることを否定するのではなく、二兎も三兎も追

たければ、ぜひ追うべき”というメッセージである。画像診断とIVRを突き詰めてもよし、臨床と教育を突き詰めてもよし、またgeneral radiologistを目指してもよし、などなど。

るな先生は、その多様性こそ、放射線科に求められ、その可能性があるのは放射線科であると伝えたいのではと考える。また、指導する立場である私たちにとっても、その多様性を理解し、スキルを身につけ、また留学事情から知りえた研究・教育面から合理性、迅速性を学ぶべきであろう。一方、研究と臨床が明確に区別された海外に比べ、多様性は日本の強みになるのではと感じる。

「放射線科って、どんな科？」って知りたい学生やレジデントにとっても、また管理職に就いたけど、もう少しチャレンジしたいと思うベテラン放射線科医にとっても、読みごたえのある内容になっている。

最後に、るな先生へのお願い。次回は定年後のセカンドライフも紹介してほしいな。例えば、

「今は市中病院の病院長です。平日は忙しくて、なかなか勉強する時間がないけど、月1回研究会に参加して、知識のブラッシュアップに努めています。実は、その後の若手との飲み会が目的……(笑)(60代、男性)」

「やっとう育てが落ち着き、今、旦那とマレーシアに移住し、週1回一緒にゴルフ。今までのスキルを活かして、遠隔読影しています。(60代、女性)」などなど。

書きたいことは、まだまだありますが、このあたりにしておきます。世代を超えて、ぜひ読んでいただきたい。今後のより良いライフスタイルやワークスタイルのために必ず参考になります。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター
小児画像診断部
松木 充

